



大きくなったら、また会いたいね
～すぎのこ幼稚園 サケの稚魚放流～

2月21日、すぎのこ幼稚園認定子ども園の年長組園児たち28人が、蛇尾川にサケの稚魚を放流しました。この日放流されたのは、3、4センチメートルに育ったサケ稚魚500匹。稚魚は小さなバケツに入れられ、園児たちの手で川に放たれました。この後、稚魚たちは海に出て大きくなり4年後に戻ってきます。園児たちは「(サケの子どもが)小さくてかわいかった」、「(稚魚が大きくなって)戻ってきたらまた会いたい」と元気に答えてくれました。



怖い鬼には負けないよ
～いなむら保育園 豆まき～

「おにはそと～、ふくはうち～」節分の日の2月3日、いなむら保育園で豆まきが行われました。年長組の子どもたちが鬼のお面を被り園庭に現れると、ほかの組の子どもたちが元気に豆をまいていました。すると突然大きな鬼がそこに乱入。子どもたちは悲鳴をあげて逃げながら、懸命に豆を鬼にぶつけます。ついさっきまで小鬼役だった年長組の子どもたちも一緒になって豆をまき、怖い鬼を見事に追い払いました。



上：手綱を引いてもらわなくても慣れてしまえば1人で乗れるんです 左下：エサの干し草をみんなでカゴに積み込みましょう 右下：大好物のリンゴをあげてもっと仲良くなるよ



馬と触れ合い 育まれる心
～青木小学校 乗馬教室～

馬は人の心を読み、触れ合うことで感情や情緒の育成に寄与し、心を豊かにすると言われます。青木小ではホースガーデンに近い立地を生かし、部活動や課外活動などで積極的に馬と触れ合う機会を提供しています。1月17日には2年生の校外学習で乗馬教室が行われ、11人の児童が乗馬と馬の世話を体験しました。渡辺睦輝くんは「馬に乗るのは4回目。最初は怖かったけどだんだん慣れてきた」と、馬をブラッシングしながら話してくれました。



“雷様剣士ダイジ”がやってきた！
～たかはやし保育園 ダイジとダンス～

県民ヒーロー“雷様剣士ダイジ”が、たかはやし保育園にやってきました。この日、誕生会を開いていた子どもたちのところにダイジが登場。すると、会場は一気に歓声に包まれました。子どもたちはヒーローを前にして目をキラキラさせながら「どうしてそんなに強いんですか？」と質問するとダイジは「大事な人を守りたいと思ってるからだよ」と拳を上げて返答。最後にみんなでダイジのエンディング曲「FuriFuri」のダンスを踊り、子どもたちは楽しいひと時を過ごしました。



小規模校の利点を生かした特色教育
～大貫小学校 英検Jr試験～

児童が目標をもって勉強に取り組めるよう、大貫小学校では学校をあげて英検Jrや漢字検定に取り組んでいます。小規模特認校制度を活用して学習のための問題集を購入し、家庭と連携した学習を進めています。2月1日には32人の児童が英検Jrを受検。八木沢教頭は「ALTの配置で英語に触れる機会は増えたが、“検定”という目標を設定することで、みんなで前向きに学ぶ風土ができています」と手ごたえを感じている様子でした。



日々の活動の様子を発信中



天然のスケートリンクで滑走
～横林小学校 スケート教室～

横林小学校の向かいにある田んぼは、毎年冬のこの時期になるとスケートリンクに変身。地域の皆さんの協力のもと、12月から少しずつ水を張りながら、子どもたちのために準備を重ねてきました。2月2日のスケート教室では、5・6年生13人が滑走。元フィギュアスケーターの村上尚子先生の指導の下、後ろ向きに滑ったり、足を交差させたり、ジャンプして回転したりと、レベルの高い授業を難くこなす子どもたち。1年生の頃からこの田んぼで練習を重ねてきた成果が見て取れました。



大空へ飛ばせ！ みんなの夢
～三島小学校 凧揚げ大会～

「行事の少ない冬季に、子どもたちが楽しめるものを始めよう」と当時のPTAと学校が企画し、今年で32回を数える三島小・凧揚げ大会。1月21日に今年も三島体育センターグラウンドで開かれ、手作り凧のコンテストのほか、6年生がクラスごとに作った連凧も揚げられました。そして、メインは“生”きる“喜”びを“心”から感じる」をテーマに全校児童の夢が書かれた3枚の大凧揚げ。当日は風が弱く苦戦を強いられましたが、参加者みんなで綱を引き、大凧が舞い上がると「やったー」と歓声が上がりました。